

## 2022 年度心理学研究科大学院説明会 質問回答集

大学院説明会へのご参加、ありがとうございました。説明会の質疑及びアンケートでいただいたご質問\*1 について回答集\*2 を作成しました。受験の際のご参考になれば幸いです。

- ※1. なるべく参加者全体に該当する内容になるよう、質問は一部アレンジしています。また、同様の質問が複数あった場合は1つにまとめております。
- ※2. 個人的な質問や込み入った内容の質問についてはこちらに記載しておりません。お手数ですが、指導を希望する教員にご連絡いただくか、教務センター（大学院係）にお問い合わせください（052-835-9863）。

Q1. 臨床心理学領域について質的研究と量的研究で迷っています。

A1. 研究方法についてのおたずねですが、研究方法は、研究テーマや目的・対象等に、より適合する適切な方法を選ぶのがよいと思います。まずは卒業研究担当の先生とご相談ください。また、ご質問の主旨が、研究方法によって、大学院入試選考に影響があるか？ということであれば、研究方法それ自体によって、入試選考に影響があるということはありません。入試選考では、卒業研究に関しては、あくまで研究テーマ・目的・方法・結果・考察といった研究全体の合理性や考察等についての総合的評価により評価されます。方法については、研究テーマや目的、対象にあった方法かどうか、そしてその方法を適切に運用できているかが重要とされるとお考え下さい。このことは修士論文研究計画書についても同様のことが当てはまります。

Q2. 内部生が外部生より有利といったことはございますでしょうか？

A2. 本学では、内部、外部で試験を分けておらず、特に内部生枠等もございません。内部、外部にかかわらず同じ試験を受けていただきます。

Q3. 臨床心理学領域で内部進学と外部進学の割合はどれくらいでしょうか。

A3. 上記 A2 の通り、本学では、内部、外部にかかわらず同じ試験を受けていただきます。そのため、外部から入学される方の人数は年度により異なります。毎年変動しますのであくまで参考ではありますが、一例として 2022 年度入学者の場合、臨床心理学領域では、中京大学出身者は 7 名、中京大学以外の出身者は 3 名です。なお、臨床心理学領域の教員にとっては、入学者が内部出身でも外部出身でも、どちらでもかまいません。気にかけているのは、個々の院生が独自に抱き探究しようとしている研究テーマや臨床的な問題意識はどんなものかということです。

- Q4. 教員の方々はどちらを得意としているかなど、ございますでしょうか？
- A4. 教員の専門について、詳細は下記の中京大学研究者業績データベースをご参照ください。その他、大学院案内には教員の一覧が掲載されています。  
[中京大学 研究者業績データベース \(心理学研究科\)はこちら](#)  
[中京大学 大学院案内 2023 はこちら](#)
- Q5. 臨床心理学領域の先生方にご質問です。自分は青年期の心理適応を研究テーマにしようと考えていますが、どちらの先生にご指導をいただけますでしょうか？また、自分の研究テーマに合う先生はどのようにすればわかるのでしょうか？
- A5. 青年期が研究対象であれば、臨床心理学領域の教員であれば誰でも対応できます。また、当大学院では、研究交流がゼミの垣根なく活発にされていますので、入学したあと、当該ゼミ以外の先生に研究の相談に行くことも日常的にあります。さらにまた臨床領域の院生でも、応用領域や発達領域の先生に研究の相談に行くということも日常的にあります。当大学院のこうした特色を活用して研究を深めていただくことを期待します。
- Q6. 公認心理師・臨床心理士の受験資格を得るためには臨床心理学領域に進む必要があるのですか？
- A6. 公認心理師・臨床心理士、いずれも大学院では臨床心理学領域でないと受験資格を得ることができません。ただし、学部時代の領域は臨床心理学領域以外でも可能です。
- Q7. 研究計画書はどれほど重要視されますか。また、その内容やテーマは合否に影響しますか。
- A7. 研究計画書は受験者のビジョンを知る上でとても重要です。口頭試問は研究計画書にも基づきますので、合否にも影響します。下記の入試要項もご参照ください。  
[入試要項等の情報はこちら](#)
- Q8. 臨床心理学領域について質問です。現在心理学部ではない学部にも所属していますが、公認心理師を目指すには必ず学部から大学院の課程を踏まなければなりませんか？大学院を修了してから学部へ進学という課程は可能でしょうか。
- A8. 公認心理師を目指す場合、学部時代に法律で定められた 25 科目を履修済みであることが必要です。したがって、まず学部で 25 科目を履修してください。また、大学院を修了したのちに、学部の 25 科目を履修することは、厚生労働省によって認められていません。

Q9. 臨床心理学領域では入学後にゼミの先生が決定するという他の領域とは異なる形態をとっているとお話をお聞きしましたが、こういった意図によるものなのか、差し支えなければ教えていただきたいです。

A9. 公認心理師科目の中の臨床指導に関わる科目の単位認定に関して、一人の教員が指導できる院生の人数の上限が法律で定められているため、その上限に達しないように、人数を調整しています。

Q10. 卒論の概要を提出する必要があるようですが、卒論が完成していない場合、出来ている部分までの概要提出でよろしいのでしょうか。

A10. できている部分までの概要でけっこうです。

Q11. 現時点でゼミ受け入れ人数の制限を超えている先生はいらっしゃいますでしょうか？

A11. 最も人数が多い臨床心理学領域に関してお答えしますと、2022年度の現時点ではおりません。ただし、例年一人の教員がゼミ院生として受け入れるのは2名程度です。

Q12. 入試の選抜方法のなかで、「卒業論文またはこれに代わる論文」を提出するようですが、卒論以外の論文とはどのようなもののでしょうか。

A12. 基本的には卒業論文をご提出ください。ただし、卒業研究が課されていない学部出身で、卒業論文を執筆していない場合、他に執筆した論文があれば、それをご提出いただくことも可能であるということです。

Q13. 大学院入試に必要な英語の能力はどれほどでしょうか？英語論文を読める能力が必要でしょうか。

A13. 最低限、英語論文を読める能力は必要です。入試に必要な能力については過去問をご参照ください。過去問の入手方法は下記A14の通りです。

Q14. 大学院入試の過去問題をもらうことは可能でしょうか。

A14. 下記の資料請求フォームから過去問題等の資料をご請求いただくことができます。すべての科目について、過去2回分の問題を入手できます。

#### [大学院資料請求はこちら](#)

教務センター（大学院係）の窓口でも受け付けております。窓口の場所がわからない場合は、教務センター（大学院係）にお問い合わせください（052-835-9863）。なお、新型コロナウイルス感染拡大が深刻化し、学内の入構を禁止している期間や土日祝日、大学一斉休暇期間中は、窓口での配布を行いませんのでご注意ください。

Q15. 教務センター（大学院係）にある大学院入試の過去問題は毎年もらいに行ってもよいのですか。

A15. はい、毎年来ていただいて構いません。なお、配付する過去問題は毎年5月に新しいものになり、古いもの（過去2回分より前のもの）は配付・閲覧できなくなりますので、ご注意ください。

Q16. 臨床心理学領域について質問です。臨床心理相談室で院生が担当できるケースですが、クライアントの主要な年齢層などはございますでしょうか。毎年異なることと思いますが、もし青年期の方が多い、社会人の方が多い等の傾向がございましたら、お教えいただきたいです。

A16. 主要な年齢層は、そのときどきでまったく異なりますが、ここ1, 2年の傾向で申し上げますと、児童から中年期や後期高齢者までの年代の方々からの申し込みがあります。とくに最近では、幅広い年代での申し込みがある印象があります。割合としては、青年期から成人期が多いですが、不登校傾向の小学生のケースもつねに一定程度あります。

Q17. 中京大学心理学部では、秋学期にカウンセリング基礎演習がありますが、もし定員の30名に入らなかった場合、公認心理師は目指せませんが臨床心理士は目指せるので大学院進学を考えています。そういう方も実際にはいらっしゃいますか？

A17. 公認心理師科目「カウンセリング基礎演習（心理演習）」の30名枠の選考から漏れた場合に、臨床心理士のみを目指すという希望で、本学の臨床心理学領域へ進学をするということは可能です。最近でも、臨床心理士のみを取得するために大学院に進学し修了した人は複数いました。

Q18. 臨床の院生さんの実際のスケジュール例を教えてください。

A18. 心理学研究科パンフレットに臨床領域の院生の生活のスケジュール例が掲載されています。参考にしてください。

[心理学研究科パンフレットはこちら](#)

Q19. 特に臨床領域で、どのような学生を求めているのかももう少し明確に知りたいです。

A19. 臨床心理士・公認心理師として将来働きたいという明確な意欲があることはもちろんのこと、これに加えて、実践的研究者として、臨床的研究をある程度する意欲も併せ持っていることを期待します。本学の臨床心理学領域には、認知行動療法、投影法、描画法、発達障害、福祉心理学、精神分析といった多様な分野を専門とする教員がいますので、こうした分野に関連した多様なアプローチやテーマを学びたい人に向いていると思います。また、将来、臨床心理学の研究者になることを視野に入れている人に

も進学してほしいと思います。臨床心理学領域では、3、4年に一人程度、博士論文が提出されています。

Q20. 大学院進学か就職かを迷っている場合は、大学院入試に向けての勉強と就活との両立をしている方はいらっしゃいますか？また、両立することは可能でしょうか？

A20. ほとんどの方はどちらかに専念されます。大学院入試も就職活動もそれほど簡単ではありません。何を以て両立できているとみなすのかによりますが、どちらも希望を叶えるのはなかなか難しいかもしれません。

Q21. 奨学金制度についてはどうなっていますか？

A21. 下記の大学院入試要項（研究科共通）の「13. 経済支援等」をご確認ください。なお、奨学金制度は変更が生じる場合がございます。中京大学公式ホームページで最新情報を確認するようにしてください。

[大学院入学試験要項 春学期（研究科共通）](#)

Q22. 研究室訪問は推奨していますか？

A22. 領域や教員によります。教員に直接お問い合わせください。連絡先がわからない場合は教務センター（大学院係）にお問い合わせください（電話：052-835-9863、e-mail：gs-office@ml.chukyo-u.ac.jp）。

Q23. 臨床心理学領域の実習について質問です。事例の担当については1人何ケース持つことができますでしょうか。

A23. 年度によってかなり変動があり、個人差もあります。ただ、最低でも約2ケース程度は受け持ちます。多くの場合は3~4ケース程度です（もっと多い人もいますが）。また、心理検査だけを担当する場合もあり、その場合をケースとして数えると、さらに担当ケース数が増えると思います。

Q24. 前期日程と後期日程で難易度は違いますか。

A24. 特に前期日程、後期日程で区別せず作問しているため、問題の難易度はほぼ同じです。

Q25. 臨床心理学領域について質問させてください。見学実習・継続実習先として挙げられていた施設については、すべて行くことができるのでしょうか。あるいは希望を出し、何か所かに行くことができるのでしょうか。

A25. すべてに行くのではなく、選択配属された何か所かに行くことになります。

Q26. 臨床心理学領域について質問です。希望する専門分野の先生のゼミに入れなくても、ゼミの垣根を超えて学ぶ事はできますか？

A26. 研究については、ゼミの垣根を超えて学ぶことは可能ですが、臨床指導については、基本的には当該ゼミの教員の指導に従っていただきます。これはクライアントに対して有資格者が臨床行為の責任を負うという倫理的規範によるものです。ただし、毎週のカンファレンス（事例検討会議）では自分の指導教員以外の複数の教員から臨床指導を受けることになります。そうした機会を活用していくことは十分可能だと思います。

以上